

C- I -12 人工呼吸療法の知識・技術に関する意識調査の分析

NPO 法人日本呼吸ケアネットワーク

青木 郁香、天野 隆、南雲 秀子、森川 亘、柿崎 藤泰、田村 富美子、
松木 恵理、野口 裕幸、金子 教宏、木村 雅彦、田中 一正、宮川 哲夫

近年の呼吸療法はめざましい発展を遂げ、それに携わる者に広い見識が必要となってきた。今回、我々は、呼吸ケアに携わる者の人工呼吸療法の知識・技術に関する意識調査を行ったので、考察を加え報告する。

【対象と方法】

NPO法人日本呼吸ケアネットワーク主催第3回呼吸ケアセミナー（埼玉県大宮市、約1100名参加）において、セミナー参加者に「人工呼吸療法の知識・技術に関する意識調査」としてアンケート調査を実施した。人工呼吸療法の基本となる事柄10項目と人工呼吸器に関する事柄8項目に対し、かなり自信があり（5点）からかなり不安があり（1点）の5段階として、回答者自身の理解度について回答を求めた。

【結果とまとめ】

回答者数は380名（34.5%）であり、その内訳は、看護師335名、理学療法士29名、臨床工学技士11名などであった。総ポイントは、看護師57.3±13.2点、理学療法士44.9±16.1点、臨床工学技士56.5±16.2点であった。また、設問毎のポイント（図1・2）は、看護師は全ての項目において3点前後であるが、人工呼吸器の構造と動作原理や日常メンテナンスが若干低かった。

一方、理学療法士は呼吸理学療法について、臨床工学技士は人工呼吸器に関する事柄の全般について、それぞれ突出しているが、その他の項目で低かった。この職種による差は業務範囲と重なっており、これは知識・技術の習得を自己努力に任せていることの現れであろう。多くの患者様に良質な呼吸ケアを提供するためには、各職種の卒後教育とは異なった、呼吸ケア

全般を網羅する教育システムが必要である。そのためには、学会や関係団体と連携やすることや各職種の業務内容を法的側面から検討することも重要である。

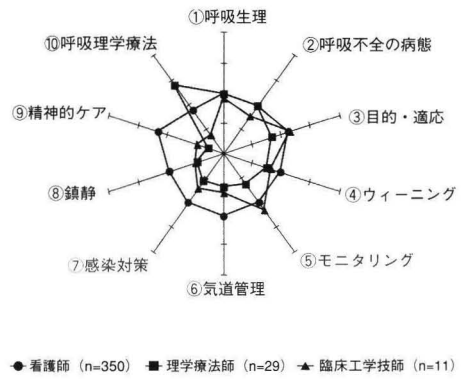


図1 設問毎のポイント (1) 人工呼吸療法の基本となる事柄

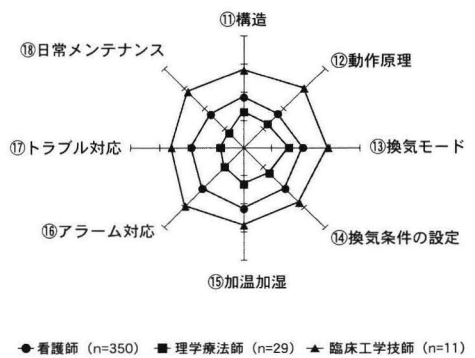


図2 設問毎のポイント (2) 人工呼吸器に関する事柄